

進路選択のヒント学ぶ

岐阜市加納南陽町の加納高校で、普通科1年生が将来の進路を考える「キャリアトーク・デー」が開かれ、さまざまな職業に就く保護者22人が集まって仕事のやりがい伝えた。

(山田俊介)



生徒たちに仕事のやりがいを伝えた阪野英恵さん(奥左)と古田敦資さん(同右)＝岐阜市加納南陽町、加納高校

生徒たちの進路選択に役立ててもらおうと、同校P

TA進路委員会が初めて開いた。薬剤師や獣医師、

獣医師、SE、保育士など多業種

加納高、保護者22人招き講話

システムエンジニア、英会話講師、新聞記者、保育士といった職業の有志が集まり、生徒約280人が希望する講師の話を聞いた。

全国農業協同組合連合会県本部(JA全農岐阜)の阪野英恵さんは、園芸やコメの販売などに携わったこれまでの経歴を振り返って大変さを語りつつ「その商品の良さをどう出すかを考えるのが仕事。イメージを膨らませることで仕事は充実する」と伝えた。

関市本町の和菓子店「関市虎屋」の3代目店主・古田敦資さんは、和菓子作りを通じた感動の創出、地域の魅力発信といったやりがい語り「みんなが楽しくなるためにはと考えて行動することで、やりたい職業

が見つかるはず」と助言した。

将来は農業に携わりたいという平田素羅さん(16)は「仕事にはさまざまな人が関わり、それぞれの責任感が社会をつくっていると実感できた」と話した。